

早稲田大学 大学院法学研究科
2025 年度 修士課程入学試験問題（一般入試）
【専修科目】

専攻名：民事法学

専修名：商法

次の問 1～問 5 のなかから一問を選び、答えなさい。

1. 株式会社において、会社の経済的な価値に対する権利（自益権など）を保有しないにもかかわらず株主総会における議決権を実質的に行使することができる者が存在する状態を empty voting と呼ぶことがあり、近年、その弊害について議論がなされている。この問題について、以下の（1）～（3）の問いに答えなさい。

（1）会社法の法制度あるいは実務において、empty voting が生じている具体的な事例を挙げなさい。

（2）empty voting に伴う弊害はどのようなものか、株主総会における議決権の意義を踏まえて説明しなさい。

（3）（1）で挙げた事例において、empty voting の弊害を除去するためにはどのようにすればよいと考えるか、論じなさい。

2. 企業買収の対抗措置について、関連する近時の判例または裁判例を踏まえ、その法的問題について論じなさい。

3. 商法 521 条（商人間の留置権）が適用される具体的な場合を挙げ、この規定が商法に設けられている趣旨を、同条の定める各要件に触れながら説明しなさい。

4. 国際海上物品運送法において、船荷証券に記載された運送品と実際の運送品が、その種類において異なっていた場合（「品違い」という）、運送人は、善意の証券所持人に対して、船荷証券の記載通りの運送品の引渡義務を負う（商法 760 条）とする見解がある。この結論に至る諸学説について説明し、その当否につき自由に論じなさい。

5. 生命保険の募集における勧誘行為をめぐる法的問題について論じなさい。

答案の書き方（横書き） 六法全書の使用を認める。